

【編集委員会特別企画】

研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方講座—研究方法論と具体的方法を自覚的に選択するために—

研究方法論と具体的方法

八田幸恵（『研究紀要』編集委員、大阪教育大学）

1. 学会の研究紀要に掲載される論文とは？

(1) 形式が整っている。

①問題意識、先行研究、課題設定、論証、結論（考察）が明確。

②注や参考文献の書き方が適切。

③記述の根拠が明確な文章表現（「論」理的な「文」章）。

(2) 学術界における面白さ（研究意義）が明確。

①自分にとっての面白さとの違い。

②先行研究に対して、自分の研究のオリジナリティはどこにあるのかを明示する。

これまでその分野の研究が明らかにしてきた成果とどこが違うのか、その分野で課題とされてきたことにどう応えているのか。先行研究を批判的に検討することによって明示する。

→「関西教育学会」の「研究紀要」に掲載する理由を、査読者が読み取れるように書く。

2. 査読について

(1) なるべく多くの良い論文を掲載するための査読

・「落とすための査読」ではない。

(2) より良い論文にするための査読コメント

・先行研究やその読み方に対する疑問

・根拠が読み取れなかった部分、曖昧な表現、再確認して欲しい「誤字」等。

3. 投稿・再投稿時の注意事項

(1) 投稿規程をよく確認してから投稿する。

(2) 再投稿時には、別紙で修正箇所を明示し、修正要求以外の部分を書き換えない。

※上記の内容は、昨年度開催された「第一回 研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方講座—『関西教育学会研究紀要』掲載にむけて—」にて配付されたレジュメ「研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方」（宮坂朋幸・『研究紀要』編集副委員長）より抜粋しました。

4. 教育学の研究法論 文献研究とフィールド研究

| 文献研究の目的 | フィールド研究の目的 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究・先行実践との関係で自身の問題意識を対象化し、先行研究の蓄積の中に位置づけ、設定すべき課題を明確にする。 ・ 文献や資料を収集して読み込み思考実験することで、設定された課題に対する自身の主張を論証したり、歴史的に検証したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 下記表の◎を参照。 |

5. フィールド研究の具体的方法

| | 解明志向 ◎現実を客観的に観察・解明する | 改善志向 ◎目の前の現実を実践的に変えていく |
|----|--|--------------------------------|
| 量的 | 社会的実験、アンケート・インタビュー等の社会調査 ◎真偽の検証、法則の定立 | 開発、効果測定 ◎個々の開発物の有効性の検証 |
| 質的 | インタビュー、事例研究、参与観察 ◎仮説の生成と事実の解釈 | アクション・リサーチ ◎典型事例の創出と実践指針の提示 |

※上記2つの表の内容については、石井英真「コラム⑬研究法論」田中耕治・石井英真・八田幸恵・本所恵・西岡加名恵『教育をよみとくー教育学的探究のすすめ』有斐閣、2017年の内容を抜粋・一部修正しました。

⇒ 多くの会員の皆さまからの投稿をお待ちしています！